

私のお茶の水女子大学への留学

松井ユリア（ドイツ・ケルン大学）

ドイツのケルン大学の留学生の松井ユリアです。2014年の10月に日本に来て、約11ヶ月東京のお茶の水女子大学で勉強しました。

日本にはもう一応慣れていて私は主に東京に初めて住んでみることを楽しみにしていました。着いてあっという間に帰宅した気がしました。寮には色々手伝ってくれる人がたくさんいるので、分からないことがあっても、助けてくれます。初めは難しいと思っていた区役所の手続きなども無事に終わらせることができ、安心しました。

来日する前は女子大ってどうなのかと考え、あまり想像できませんでしたが、ほかの留学生たちや先生、そして日本人学生に会って、心配はすぐなくなりました。ケルン大学と違って、お茶大はとても小さくて、学生も少ない大学なので、着いた時は静かで綺麗なキャンパスに感動しました。小さい大学に通うメリットは町の人混みから抜け出すことができ、レベルに合わせて選んだ授業に参加することができて、学生も少なく、先生との関係がとても近いことだと思います。さまざまな国から来ている留学生の中で、とても良い友達を作ることができて、そのため授業中でも、学生寮でも、一人になってしまう時は全くなかったです。

一日中どこに行っても友達がいることの幸せを感じることができました。新潟への一泊の修学旅行もあって、日



本人学生と留学生の多くの人に参加して、とても面白かったです。今は帰国して、ケルンの少しバタバタしている、大きいキャンパスに逆に慣れることができるのだろうか心配しています。

小さなお茶大のキャンパスに対して、大勢の人々が住む東京に暮らしてみても、言葉に表せないほどの感慨を感じます。振り返ってみると、暇があまりに少ない留学生活で、勉強も忙しい時期はありましたが、ベビーシッターと家庭教師のアルバイトもできて、空いている時間は友達と新しいレストランやカフェを見つけたりしました。勉強になった経

験もたくさんあったし、楽しいことも数え切れないほど多くありました。旅行はたくさんは行けませんでした。京都と奈良に3泊行けたので、とても印象に残りました。



毎日することがあって、一年はあっという間にたっ
てしまって、残念な気持ちもあるのですが、旅行のような
一年を過ごすのではなく、実際に暮らした気がするので、
精神的にもだいぶ成長できたのではないかと思います。毎日
が忙しくて、人混みの多い町なのですが、してみたいと
思った事はなんでも可能で、家を出さえすれば、町を楽し
めます。都心にとても近い寮に住めたので、家を出て池袋
まで15分、新宿まで20分、渋谷までは30分以内で行け
たので、忙しい時にもちょっと遊びに行けたりしました。

東京で大好きになった場所はたくさんあります。個人的に得に好きな場所は伝統的な浅
草、ヨーロッパの雰囲気がある日本との混ざっているオシャレな表参道と東京から少し離れて
いるが海があってとても素敵な鎌倉です。普段遊びに行ったのは新宿や渋谷などです。始
めは渋谷などの大勢の人にイライラすることも多かったが、1年後は人混みの中で落ち着
いたままでいられるし、ラッシュアワーの満員電車にも普通に乘れるようになったので、
かなり成長した気がします。

ドイツに帰ってできることで楽しみなこともあります。すぐに日本に戻りたい気
がするでしょう。24時間空いている大変便利なコンビニ（特にコンビニのおにぎり）、店
員さんのサービス心、周りの人に迷惑をかけないという常識、そしてこの一年間でできた
お友達、これらが無い世界に生きて行けるのかとても不安です。

お茶大で勉強できた留学の一年間、溢れるほどの思い出を作って終わらせることに
なります。日本に留学してよかったと言う強い気持ちでドイツに帰ります。